

# 認定NPO法人いもむしの目的

当法人は、社会復帰、自立、社会参加に努力している障がい者及び高齢者に対して、社会適応訓練、職場適応訓練、職業能力開発訓練等の諸事業並びに、一般就業、雇用にかかわる事業の推進を図り、障がい者および高齢者の安心、安定した地域生活を支援し、ノーマライゼーション社会の構築並びに社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

知的障がい児や知的障がい者の人たちがいもむしのようにたくましく生きていって欲しい。夢を持ち続けて、いつかは蝶のように大空を飛べるようになって欲しい。そんな思いで、NPO法人いもむしと命名しました。

3 すべての人に  
健康と福祉を



10 人や国の不平等  
をなくそう



11 住み続けられる  
まちづくりを



16 平和と公正を  
すべての人に



# 放課後等デイサービス（放デイ）とは？

放課後等デイサービスは、支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものである。

厚生労働省 | 放課後等デイサービスガイドライン

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000082829.pdf>

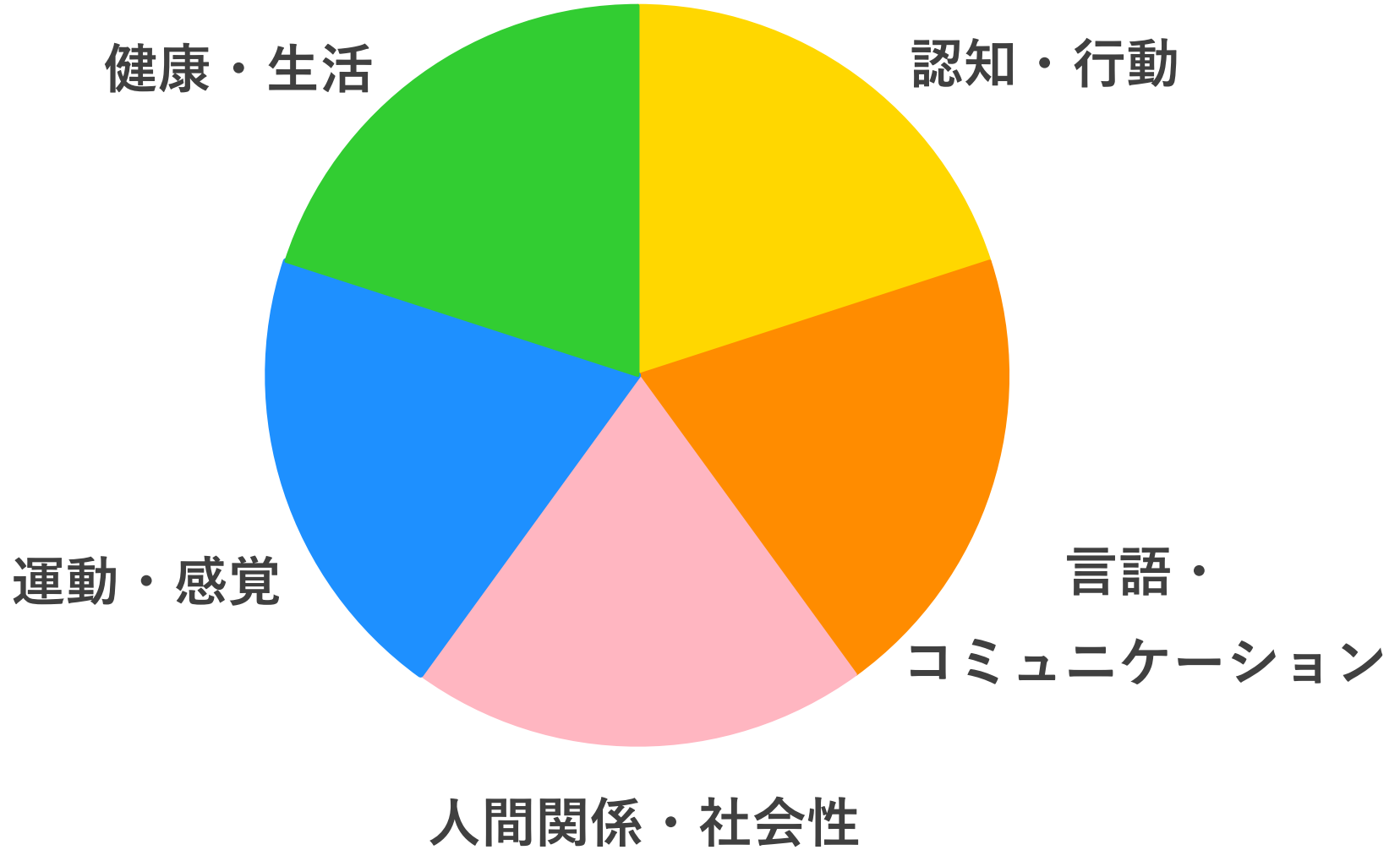


## かわいい子供たちのかけがえのない時間を支えます

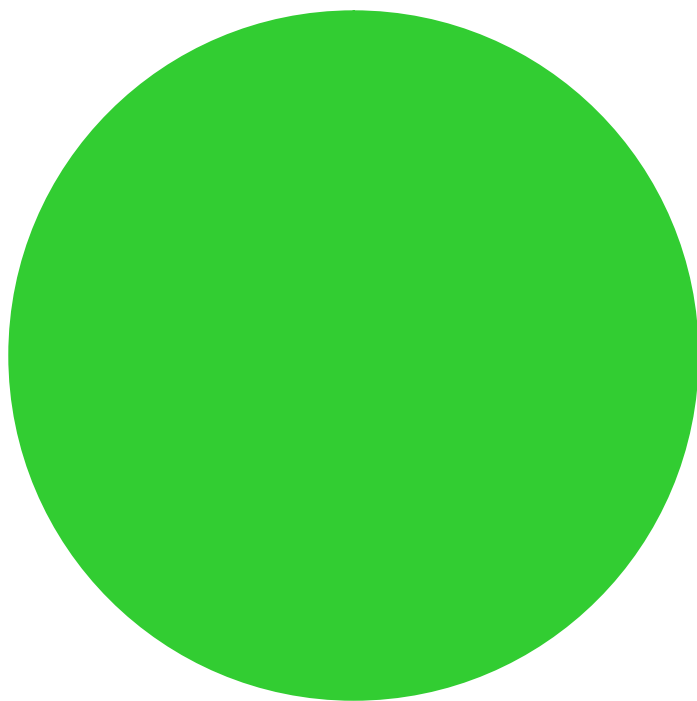
小学校1年生から高校3年生までの障がいがあるお子さんたちに、放課後や夏休み等の長期休暇中に楽しく過ごせる居場所として開所しています



# 放課後等デイサービスにおける5領域の支援プログラムと当法人での活動



## 健康・生活



### ねらい

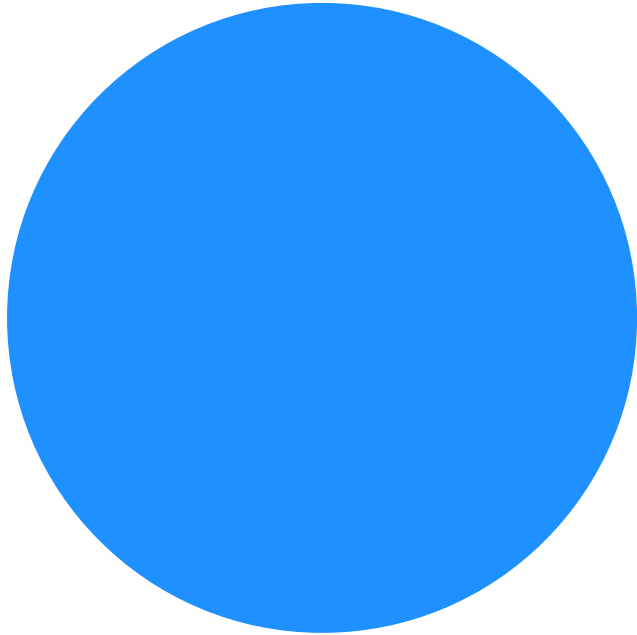
- (a) 健康状態の維持・改善
- (b) 生活のリズムや生活習慣の形成
- (c) 基本的な生活スキルの獲得

### 支援内容

- (a) 健康状態の把握
- (b) 健康の増進
- (c) リハビリテーションの実施
- (d) 基本的な生活スキルの獲得
- (e) 構造化等により生活環境を整える

- 来所時に体温測定などによって健康状態を確認しています
- おやつや昼食などでの食べ方の指導、排せつ指導など生活に必要な技能を支援します。利用者によって技能獲得のスピードが異なりますので、個性に合わせて支援しています

## 運動・感覚



### ねらい

- (a) 姿勢と運動・動作の向上
- (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
- (c) 保有する感覚の総合的な活用

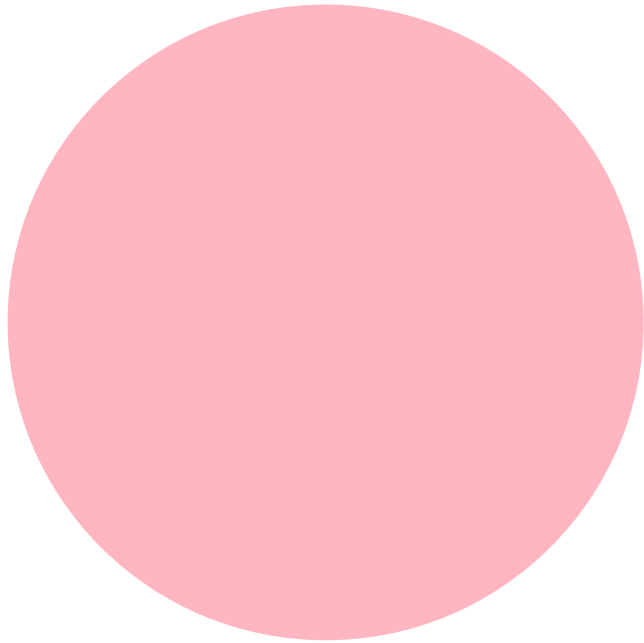
### 支援内容

- (a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- (c) 身体の移動能力の向上
- (d) 保有する感覚の活用
- (e) 感覚の補助及び代行手段の活用。
- (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

- お庭遊び、施設での歩行や遊具での活動を通して身体活動の向上に努めます
- おやつ、食事の時間ではきちんとした姿勢で食べられるよう支援員が指導しています
- 夏は大きいプールを出してみんなで遊んでいます



## 人間関係・社会性



### ねらい

- (a) 認知の発達と行動の習得
- (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得
- (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

### 支援内容

- (a) 感覚や認知の活用
- (b) 知覚から行動への認知過程の発達
- (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- (d) 数量、大小、色等の習得
- (e) 認知の偏りへの対応
- (f) 行動障害への予防及び対応

- 音楽を聴く、歌を歌うなどを通じた聴覚機能の発達
- 絵本を読む、おもちゃで遊ぶことによる触覚、視覚機能の発達
- 支援員と会話しつつ生活を送ることで日々の生活環境から情報を得て、子どもたちの行動や生活につなげる練習をしています
- マグネットでスケジュール等を視覚的にわかりやすくしています
- 障がいの度合いに関係なく、皆が同じ場所で共生できるよう、工夫しています

## 言語・コミュニケーション ねらい

- (a) 言語の形成と活用
- (b) 言語の受容及び表出
- (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上
- (d) コミュニケーション手段の選択と活用

## 支援内容

- (a) 言語の形成と活用
- (b) 受容言語と表出言語の支援
- (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- (d) 指差し、身振り、サイン等の活用
- (e) 読み書き能力の向上のための支援
- (f) コミュニケーション機器の活用
- (g) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

- こどもたち同士の会話、子どもたちと支援員の会話によって子供たちのコミュニケーションが豊かになるよう工夫しています
- 支援員は、子どもたちとの会話だけでなく子供たちの動作、様子などを踏まえ何を望んでいるのかを考え支援しています。
- 施設にいる間、少人数、またはマンツーマンで支援員とこどもがコミュニケーションをとれる時間を作れるようにしています。



## 人間関係・社会性

### ねらい

- (a) 他者との関わり（人間関係）の形成
- (b) 自己の理解と行動の調整
- (c) 仲間づくりと集団への参加

### 支援内容

- (a) アタッチメント（愛着行動）の形成
- (b) 模倣行動の支援
- (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- (d) 一人遊びから協同遊びへの支援
- (e) 自己の理解とコントロールのための支援
- (f) 集団への参加への支援

- 休み時間やおやつの時間は支援員が子どもたちとお話ししながら過ごすことで楽しく時間を送りながら社会性をはぐくめるようにします
- 子どもたちの要望や特性に合わせて遊びを柔軟に変化させることで子どもたちの個性と好みに合わせた楽しい時間を過ごせるようにします
- ひな祭りやハロウィンではイベントを催すことで、一人遊びだけでなくみんなで遊ぶ楽しさを感じれるようにしています。みんなで遊ぶ喜びは社会性をはぐくむことにつながります
- 日々の生活の中で、子どもたちの特性や成長スピードを考えつつ時間や守るべきルール、生活行動の手順を丁寧に伝えるようにしています